

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	未成 妙子	職名	教授	学位	教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	---------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽教育学</li> <li>・特別支援教育学</li> <li>・幼児教育学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害教育 (聴覚障がい児の器楽合奏教育)</li> <li>・こども音楽療育</li> <li>・表現 (身体・音楽)</li> </ul>

研究課題
<p>「こども音楽療育」の分野に関して、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し、音楽の実践力をつける方法を研究する。こどもの演奏を存分に引き立たせ、なおかつ保育者にとって演奏しやすい効果的な楽曲を創作し、活用して、実際の保育の場面で実践し、その効果を検証する。障がいのある子ども、そうでない子ども、共に活動ができ、発達を促すために十分配慮した「音あそび」「表現あそび」について研究する。障がいの中でも、特に聴覚障がいについては早期に障がいを知らされても、0、1、2歳へ支援が十分とは言えていない現状を見据えて、言葉の指導を含めて音楽を使った聴覚活用について引き続き研究をする。</p>

担当授業科目
<p>こどものうたあそび (後期)            保育内容「表現 (身体・音楽表現)」(前期)            保育総合表現 (後期)            こども音楽療育概論 (前期)            こども音楽療育概論 (後期)            こども音楽療育実習 (後期)            こども学基礎演習            こども学特別演習</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 こども学基礎演習 】</p> <p>年間のおおむねの流れは学部全体で決まっているが、未成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということで、新入生研修におけるゼミ活動では「パラパラどんぐりころころ」というなじみのある子どもの歌をハイテンポにアレンジしたものを使っての身体表現、目隠しをして保育の日常で使う打楽器を聞き分けるゲームなどを実施した。また後期の「お話発表会」では、「おどりたいの」という絵本を用いて学生の非常に積極的な取り組みを目の当たりにし、リーダーを中心に物語を構築していく活動を学生自身が積極的に楽しみ、充実感を持って取り組んでいたのが大変有意義な展開だった。1年間の学びは保育の現場で必ず役立つものだと強く感じた。</p>
<p>授業科目名【 こども学特別演習 】</p> <p>音楽ラボと銘打ったゼミ活動は、年間を通して音楽に満たされた活動になった。前期の最初は保育現場で用いる器楽合奏を各々が選び、実際に演奏する中でより良い響きを工夫し、既成の楽譜に手を加えるという作業は通して、「音楽の道しるべ」というべき楽譜の存在の正確さ、すばらしさを実感できたと考える。また、保育の現場で歌われている歌をピアノの「連弾」で演奏する活動を通して、各々のピアノテクニックに見合ったアレンジで友達と演奏する喜びを体感した。前期の終わりにはミニ発表会を実施した。</p>

後期は西南女学院 100 周年プレイベントの一つとして井堀市民センターにおいて「小さな森の音楽会」を開催し、ゼミ生による音楽物語「ごんぎつね」を演奏し大いに成果を上げることができた。来場した子どもたちにもストーリーがわかりやすいように大型紙芝居を用いて情感あふれる合唱物語を歌う上げ、また北九州交響楽団の演奏するアンダーソンの「タイプライター」という曲では、実際のタイプライターをゼミ生がソリストとして参加し、たくさんの拍手をいただいた。学外の会場で音楽会を開催するという過程で、学生のスキルアップは目を見張るものがあった。

授業科目名【 保育内容「表現（身体・音楽）」 】

後期の総合表現につなげるために「音楽を用いた身体表現」、「劇あそびと音楽を関連つけた表現あそび」を実体験するように構成した。身近な楽器の特性と演奏効果を十分に理解し、さまざまなリズムを身体表現とピアノ以外の楽器の効果を使いながら表現することを学ばせるなど、学生が体を使っての音楽的な活動を体験しながら表現の楽しさを実感でき、さらにお互いの表現活動を考察する授業展開を構築した。音楽表現を使った劇遊びでは、グループによる協働作業を重視した。未成自作の楽曲を多く使い、全音音階を用いた旋法の和声の響きを体感させた。

授業科目名【 こども音楽療育実習 】

障がいのある子どもたちが音楽をとおして、コミュニケーションの手段を少しずつ手に入れ、ゆっくりだが着実に周りとの関係性を深めていく姿をイメージさせながら、音楽の力を使った様々なセッションを行った。資格習得のために学生も緊張感を持って臨んでいた。23名の受講生はまじめなあまり、最初は固くなってうまく子どもに自分の思いが伝わらないもどかしさを感じていたようだが、向学心を持ち、お互いの良いところを評価し合いながら和やかな雰囲気の中で力をつけていった。幸せなことに、本年度のこども音楽療育受講生 23名は未成ゼミとともに 11 月 30 日に「西南女学院 100 周年プレイベント」として井堀市民センターにて「小さな森の音楽会」を開催することができた。北九州交響楽団、本学の地域連携室など様々な方々のご尽力を得て、音楽会の全プログラムに学生が参加し、地域の子供たちと密にかかわる音楽会を、音楽の多様な力を持って成功させた。

授業科目名【 保育総合表現 】

保育科全体のまとめと位置づけられている科目であり過去 4 年間は外部のホールにて土曜日の午後で開催してきたが本年度初めて 2020 年 1 月 15 日（金）に、本学マロリーホールにおいて「シオンの丘子ども劇場」というタイトルで開催した。園バスや徒歩で北九州の 7 つの園から 300 名を超える園児さんと引率の保育士さんが参集くださり、大変活気のある素晴らしいまとめの発表を行うことができた。学生は協力して行うことの大切さ、そして表現する充実感を存分に味わうことができた。舞台上立った演技者はもちろん、大道具、小道具、衣装、音響は生の楽器を使った臨場感あふれるものを、照明はマロリーの機材を駆使して、学生自身の手によって行い、おのおの力を結集し、充実した舞台を作ることができた。学内で行う利点は、リハーサルと本番が同じステージでできること、会場費を削減できたこと、日程を変えたことで保護者に頼らず幼稚園・保育園の学外行事として来ていただけたので、毎年の懸案事項であった「集客」という、最も難しい問題をクリアできたことだったと考える。会場はたくさんの子どもの笑顔と元気な声に包まれて、次年度への弾みにもなった。プログラムの作成、当日の案内、お礼状の作成まで学生各々が自覚を持って取り組むことができた。他の授業との連絡、機材の新調などが課題として考えられるが、できる範囲で改善しながら次年度に向けて考えたい。

授業科目名【 こども音楽療育演習 】

学生はグループごとに萌文書院「一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現」から、楽曲を選びセッションを実演しながら、お互いを評価し合う授業を行った。スマートフォンの普及で、こどもの「手遊びうた」「うたあそび」は、どこの誰とも知れない個人のアップした映像をまねるという短絡的な資料で行う傾向がある。しかしこの授業では障がいのある幼児さんとかかわるときに曲はどのようにアレンジしたらよいかということをも未成と個別に検討し、楽譜に書き表すという大変手間のかかる作業をすることで、本当に自分が現場で使えるセッションを構築することができると考えて、学生は時間を惜しまず取り組んだ。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことや、言葉かけの方法、曲の提示の仕方を未成の助言を参考にしながら、後期の「こども音楽療育実習」につなげることを目指した。

授業科目名【 こどものうたあそび 】

「積極的にピアノ伴奏を学生が行ってほしい」ということを授業の初めに伝え、次週の課題となる曲目をはっきり提示して予習が必ずできるように心掛けた。保育園・幼稚園では年間を通じて毎日必ず音楽を使った活動や歌う活動がある。「うたあそび」つまり、歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶこと、リズムにのってあそぶことが人間関係を深めていくこと、園生活において保育者は「うたあそび」を積極的に取り入れ、子どもたちに歌いかけ、スキンシップをし、ふれあいながら遊ぶことが集団遊びにつながることで、そして保育者や友達と一緒にリズムに乗って軽快に動く遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの楽曲をとおして学ぶ授業とした。歴史的なわらべ歌から最近のこどもの歌まで、莫大な数のこどものうたから、わずか 15 回の講義にどの曲を学ばせるかは、童謡コンクールに携わった経験も含めて十分に精査して講義を進めた。伴奏に関して、最初はためらいの多かった学生も、回を重ねるごとに自信をつけたり、互いに励ましあったりして、1 度も講義をする側の未成から指名してピアノに向かわせるということなかった。各自が持ち前の個性を發揮して、積極的に取り組んだ。この積極性は保育科のすばらしさであると改めて実感した。明るくはっきりした歌声で歌い合い、見せ合い、動き、あそび、たくさんの歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することと、単独の身体表現を含めてのうたあそび・輪唱あそびを行うなかで積極的に「うたあそび」を楽しむ姿勢が身についた。

授業科目名【 こども音楽療育概論 】

長年にわたり未成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。まず、未成の専門分野である聴覚障害の実際について、具体的な様々な角度からの不自由さを理解し、映像などを提示しながら、音楽の力と障がいのある子どもへの理解を深めさせた。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持って受講しているので 23 名の学生は大変まじめで向学心を持ち、緊張感を持っていた。講義の初め頃は地域の障がい者施設、音楽の多様な力を持ってする療育的保育ということにはなじみが薄いという印象もぬぐえなかったが、回を追うごとに大変積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、近年ますます多様化、重複化するこどもの障がいを理解するために、できるだけ実際の音や効果、方法、音楽の力を示しながら講義を進めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011 年～現在に至る

2 0 1 8 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 「聴覚障害乳幼児への音楽的アプローチ」	単独	2020 年 10 月 19 日	日本音楽教育学会第 50 回東京大会	聴覚障害乳幼児への支援はその発見が早期に行われているにもかかわらず 0, 1, 2 歳は法整備の網の目からこぼれているのが現状です。そのことを改善するための調査に参加したことをもとに音楽が聴覚障害乳幼児教育にいかにか有効かを検証しました。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

国際交流委員会	副委員長	留学生選考の面接試験において試験官を務めた。
公開講座委員会	副委員長	
8月18日（日）	オープンキャンパス	模擬授業「体験！こども音楽療育士」担当
8月21日（金）	保育士免許更新講座担当	「（選択科目）子どもの可能性を広げる保育者の援助」
11月30日（土）	西南女学院100周年プレイベント	地域活動の一環として井堀市民センターにおいてこども音楽療育受講生とゼミ生を中心にした「小さな森の音楽会」開催

以上